

あすなろ

発行 沖電気の職場を明るくする会 (OAK) TEL 03-3455-6006
東京都港区三田3-2-20 FAX 03-3451-3595
メール: oak@fine.memail.jp



沖電気の職場を明るくする会

のホームページです



電機懇・要求アンケートも受け付けています
本音をかたる面白い掲示板etc

<http://oak47.hp.infoseek.co.jp>

激動の年のスタート

サービス残業の調査終了!

不払い分対象者は五百名 約一億円の支払い

NSCに働く労働者が不払い残業(サービス残業分)の支払いを求めて港区の三田労働基準監督署に訴えていた問題で、沖電気は申告人本人に2年間の不払い分、まわりの労働者には約二千七百万円の残業代を支払いました。

さらに沖電気は時間管理の調査を全社的に実施する、と労基署に回答しました。

全社調査の報告は約五百名の労働者に不足の残業代を支払う。金額は昨年支払った額と合わせると概ね一億円ぐらいいなる。不足分は十二月の年内は無理だが年明けには支払うというものです。

沖電気の不払い残業は、毎年の春闘アンケートでも本人の不満や家族からの健康問題の心配で大きな問題として訴えられてきました。五百名に不払い分が支払われることは大きな前進ですが昨年支払わ

れた一人平均百万円に比べると人数に比較して支払額があまりにも少なすぎます。調査は終了したとのことですが、納得できない対象者は再度申告をして是正することが求められます。沖電気から一切のサービス残業をなくすためには今後も調査を継続することが必要です。

電機連合も時間管理の 適正を方針化

上部団体の連合の方針をうけて電機連合の第89回中央委員会議案で「不払い残業撲滅に向けて取り組みを強化」の方針が提起されました。この方針は一昨年の厚生労働省の指針を受けて、電機では沖電気・日立・NECなどの労働者有志や過労死を心配する家族が不払い労働の支払いを求めて各地の労働基準監督署

転籍は本人の 承諾が必要

富岡工場のある職場では職場全員をHNPへ転籍させる提案がありました。Mさんはこの提案にどうしても納得できず自分の職歴を生かせる職場への異動を希望し上司と話し合いました。「職場がなくなる、他の人はみんな承知した」などと説得されましたが、

転籍には応じませんでした。何度かの話し合いの後、会社は沖電気の身分(社員)のまま他職場へ異動の再提案をしてきました。Mさんは社員のままの異動ということでの再提案を承知しました。「転籍は自分が納得しなければ承諾しない。転籍は沖電気を退職することなので安易に妥協しない」ことが大切とMさんは話しています。

に申告し、その指導で残業代を支払わせる実績を重ねたことを反映したもので、6項目からなっており時間管理の管理内容・労働時間算定の仕方・記録方法の労使確認、実労働時間と記録が違った時の処理方法のルール化、正しい労働時間の申告による不利益扱いがないことへの管理者への教育の徹底と組合員への周知、事業所ごとに職場実態に合わせた36協定の締結と届出などこの方針案が実施されれば沖電気のHOPワークやパソコンでの入・退場の記録も見なおさざるをえません。

サービス残業は犯罪

消費者金融の最大手の「武富士」を厚生労働省大阪労働局が本社など七カ所を強制捜索しました。「武富士」は大阪府内の店舗で労使協定による時間外労働を超えて、従業員に残業をさせたほか、時間外の手当でも支払っていないかたという疑いです。

大阪労働局が同社元従業員らの訴えを受け調査を進めていたもので元従業員は二年間で二五五二時間の時間外労働をしながら、武富士が勝手に決めた時間外分しか残業代が支払われていませんでした。

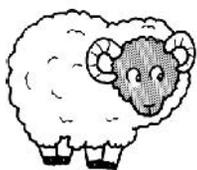
河村学弁護士の話

サービス残業をさせることは犯罪であり、処罰されるべきものという認識を広げたいという点で重要な意義があると語っています。



年末から寒い日が続いていた。雪はさらさら降

るはずなのに水気を含んでザラザラ、バサバサと地上に降りてくる。朝、凍りついて開かない窓。部屋の結露まで凍りついている。冷え切った夜空にはプラネタリウムで見る星のように無数の星がきらめく。年末恒例の紅白歌合戦。テレビではめつたに見ることのない中島みゆきがいた。厳寒の黒部ダム、トンネルの中に立ち真紅のドレスに身を包み雪よりも美しくそして凛とした声で「地上の星」を歌う。「風の中の鳥 砂の中の銀河 皆どこへいった 見送られることもなく 草原のペガサス 街角のピナス...」テレビ番組のイメージもあるが、その歌詞はすごい。人間がめざしたいと思う輝けるもの、追い求める夢や希望、それがたとえ闇の中に消えそうでも生きていく人の姿を歌っているのか。この時代、毎日の仕事や生活のなかでつくづく大変な思いをしている人は少なくない。でも、そんな時代もあつたねといつか話せる日が来る。(時代：中島みゆき)と信じて頑張っている人たちがいる。そういう姿に励まされる人も少なくない。生き方もまた同じなんだと思う。(ふ)



財界あげて 増税の大合唱

昨年は雇用保険税率が引き上げられました。今年から来年にかけては医療、年金、酒税、タバコ税の増税と、国民の負担は4兆円にも上ります。さらに日本経団連は一月一日に二〇二五年までの日本の国家像を示す「活力と魅力溢れる日本をめざして」と題した「提言」を発表しました。

この提言は二〇〇四年度から消費税の税率を毎年1%引き上げて16%にする。法人税を大幅に引き下げる。この政策に賛同する政治家に企業献金をおこなうというまったく身勝手な提案です。消費税についても「増税前に物を買うから個人消費も増える」とし将来不安で無駄をしないと買いたいものも買わずに我慢している労働者国民の意識とはまったくかけはなれていません。労働組合も連合や電機連合は、基礎年金の財源をまかなうため「年金目的消費税」

(10%程度)の新設を提案しています。消費税の1%増税は赤ん坊からお年寄りまで一人2万円の負担増です。4人家族では電機連合の提案で40万円の負担増です。痛みを耐えた先に明るい未来があると我慢を強いている小泉内閣の政策は痛みだけが增える国民いじめの最悪の内閣です。

闘う前に白旗 トヨタ労組

あのトヨタがベースアップの要求をしない。トヨタ自動車労働組合の執行部が一月七日、賃金のベースアップを見送ると表明。「ベアは論外、定期昇給の凍結・見直し」と賃下げ春闘をねらう財界の迷惑通りの展開に、連合内に衝撃がひろがっています。一兆円を越える経常利益を上げ、ため込み利益(内部留保)は従業員一人あたり三千二百万円にもなります。この方針にトヨタの労働者は「土俵に上がる前に白旗をあげた」、「元気のでる春闘をトヨタがやら

なくてどこがやるんだ」、「残業が減って月十万円を超える減収で、生活のメドがたたない。もうけた会社にベアでこたえさせるべき」と怒りがひろがっています。

雇用維持最優先は ごまかし

大企業各社はリストラで雇用に四年連続で百四十万人削減してきました。今年も主要三百社の半数が「人員余剰」があるとし、うち六十九社が〇五年度までに十一万一千人を削減する計画といます。(日経)また、小泉内閣の不良債権処理の「加速」によって、厚生労働省の試算でも新たに六十五万人が職を失うといわれています。財界は雇用を守るために「ベースアップはとんでもない。定期昇給もなくす。賃下げもありうる」と声高に叫んでいます。春闘で雇用を守るためとベースアップの要求をしないのは、雇用もまもれず、賃上げもできない、最悪の事態を招くことになりま。雇用も賃上げもの

〇三春闘にしましょう。

賃下げ分は 退職時に清算

今年、定年退職するAさん、昨年の平均六%の賃下げ分はどうなるかと上司に聞いたところ特別退職金と

して清算するとの返事。「好況時に返還すると言っていたので、とられ損かと思っていたがほっとした。組合もきちんと宣伝すれば心配しないうすんだのに」と喜んでいました。



日だけの社長あいさつ 東京

「この上ない貴重な財産である、明日を信じて必死に力をあわせている社員の皆さん」と新年に社長はあいさつされた。その大切な社員が構造改革で次々退職に追い込まれている。

新年早々、自分が働く予算は無いとされて一月いっばいで辞める。「NSCだったのが、運が悪かった」、「業務の女性があまっていた」と女性の退職があいついでいる。結婚後も、子供が生まれても、沖電気には女性が働きやすい制度がある」と頑張っていた女性たちである。

今まで以上にのびのびと良い仕事を(社長のあいさつから)しようと思っても現実には暗く、淋しい新年のまくあけだった。

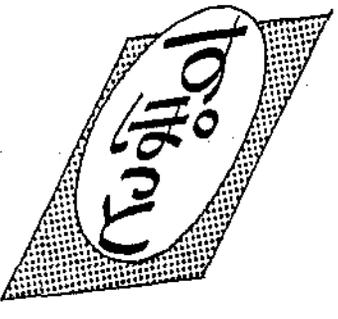
業績好調のなか よぎる不安 沖エアフォルク

概ね順調な業績で推移している中、会社は「今の時期に沖データ依存体質から脱け出す準備をしなければならぬ。そのためには原価率の低減が必要で、能率UP。より一層の効率化が求められる」と言っています。

そんな中4年前「市場価格引下げの動きが始まったことを思い出す人もいて「能率UP、効率化はけっこうだがうまくいかない」と、また人件費に手をつけるのではないかと不安を感じる人もでてきています。

昼休みの「りんご」 「甘栗」が人気です 群馬

昼休み販売に来る「りんご」と「甘栗」が大人気です。冬の季節限定ですが、値段が安く味がしつかりしています。「りんご」は長野のりんご園ですが、千円も買えば大きなレジ袋に一杯で、食堂に行く前に買って預けて食事をする人も大勢います。「甘栗」は完売するのが早く、食事をしてから買おうとしたらもう無かったというケースもししばしば。とにかく「おまけ」がす



置された。しかし、昼間の勤務は仕事が少ないという。パツケージは社内で作らないといつて群馬沖に移管し、さらに黒字の群馬沖をつぶして、長野沖に持って行った。その長野沖も本庄のパツケージは作らなくなり本庄から大変な思いをして通勤していた転籍者の多くは退職に追い込まれていった。今は、杉原製作所や岡崎電機で作っているが部材が入らず品物ができない。そのため予定どおり納品されない。「計画以上の受注が来て儲かるはずがパツケージが入らず納期対応で夜勤や派遣社員を入れてるので利益がない」。沖電気は何を考えているのか?人を減らすだけで物を作る体制もあつたものではない」との労働者の声が聞かれます。

また選挙運動を やらされる 八王子

一月十五日の定時後に、労組支部主催の「新春のつどい」が食堂で行われました。労組主催と言いなながら、出席者は、伊野専務を始め幹部社員が多数を占め、更に、八王子市助役や阿久津衆議院議員などで、内容も生永市議や来賓の挨拶が五十分にもおよび、乾杯は佐野レジデントでした。

労使の挨拶で共通しているのは、会社再建(構造改革)と統一地方選挙で生永市議トツプ当選への取組みでした。参加者からは「これは生永氏の出陣式だね」、「また、紹介活動や訪問活動で悩まされるね」の声が聞かれました。いつまでもこんな事で良いのでしょうか?

労働者は財産? 本庄

年明け早々シフト勤務で2人の労働者が夜勤に入った。派遣社員も夜勤対策で1人配